

令和8年度第1回萩医療圏地域医療構想調整会議 議事概要

【日 時】 令和8年8月20日（木） 19：30～20：15

【場 所】 萩市地域医療連携支援センター 1階大会議室

【出席者】 出席者名簿のとおり

【議事内容】

- 地域医療構想の進捗状況の検証を行い、医療機関対応方針の取組の実施状況等について確認した。
- 病床数適正化緊急支援事業について、都志見病院（※）、全真会病院（※）花宮医院の病床削減に係る説明を行った。
今後、病床を削減する※を付した医療機関に加え萩市民病院について、新興感染症に係る協定による病床の確保等、地域の医療提供体制に問題がないことを確認した上で、地域医療構想の達成に向けた対応方針の変更について合意した。
- 新たな地域医療構想策定ガイドラインの概要並びに令和8年度の優先的検討事項、3カ年度分の策定ロードマップ、検討体制及び構想区域・急性期拠点機能の決定手法について説明を行った。

- 1 令和8年度地域医療構想調整会議の進め方について
- 2 令和7年度病床機能報告結果について
- 3 地域医療構想の進捗状況の検証について

県医療政策課から、今年度の地域医療構想調整会議の予定、令和7年度病床機能報告結果について説明を行った上で、地域医療構想の進捗状況を検証するとともに、医療機関対応方針の取組の実施状況等について確認を行った。

（主な意見・質問等）

特に意見、質問等なし。

4 病床数適正化緊急支援事業について

県医療政策課及び各医療機関等から、病床数適正化緊急支援事業に係る病床削減について説明を行った。

都志見病院、全真会病院については、これに加え、対応方針（2025プラン）の変更についても説明を行った。

都志見病院の病床削減については、看護師不足や、人的・物的資源を集約し入

院診療機能を維持するため、慢性期病床 59 床、令和 5 年 3 月からの休床 58 床を削減するものであり、必要病床数に比し過剰な病床等の削減であり、削減後は急性期、回復期に人的・物的資源を集約するため、入院医療の継続に支障がないことが説明された。

全真会病院の病床削減については、看護師等の人材不足による人員配置の適正化等のため、慢性期病床 4 床を削減するものであり、病床稼働率や削減後の病床に人的・物的資源を集約することを考慮し、入院医療の継続に支障がないことが説明された。

これらに加え、萩市民病院から、都志見病院と萩市民病院の統合に関する基本合意後に見直しを行うとして「検討中」等としていた、2025 プランの病床数等について、現在の状況に合わせて、現状の 100 床等とする変更をしたい旨、説明された。

協議の結果、これらの医療機関の病床削減について新興感染症に係る協定による病床の確保等、地域の医療提供体制に問題がないことを確認し、対応方針の変更について合意した。

(主な意見・質問等)

特に意見・質問等なし。

5 令和 7 年度かかりつけ医機能報告の結果について

県医療政策課から、令和 7 年度かかりつけ医機能報告の結果及び活用のあり方について説明を行った。

(主な意見・質問等)

特に意見・質問等なし。

6 新たな地域医療構想の策定について

県医療政策課から、新たな地域医療構想策定ガイドラインの概要並びに令和 8 年度の優先的検討事項、3 カ年度分の策定ロードマップ、検討体制及び構想区域・急性期拠点機能の決定手法について説明を行った。

(主な意見・質問等)

○ ロードマップで示されたスケジュールでは、実質的に 2 年間で検討を行う

ことに見えるが、これが前後することはあるか。

⇒ 構想区域ごとの医療提供の状況や議論の進捗も異なると思われるため、多少の前後があることは予想される。地域の関係者の皆様の意見を聴きながら十分な協議を行ってまいりたい。

○ 急性期拠点機能を担う意向等に関し県独自に行う調査をするということだが、調査結果を踏まえた地域での協議を経て医療機関機能が決定されるのか。

⇒ 調査結果については、県で取りまとめた上、調整会議や検討部会等において共有する。その上で、地域の関係者での協議を経た上で、急性期拠点機能を担う医療機関の決定につなげたいと考えている。